令和８年２月２７日　学校だより第１０号　新発田市立猿橋小学校　http://saruhashi-e.shibata.ed.jp

猿橋小学校　瑳玖良

瑳玖良校は明治期における猿橋小の旧名。切磋琢磨の意が込められている。

支え合って　飛ぶ

校長　磯部　裕之

連日、日本人選手の活躍が報じられるミラノ・コルティナ冬季オリンピック。２月 12 日の新聞には、スキージャンプ混合団体で銅メダルを獲得した日本チームの記事が載っていました。特に、高梨沙羅選手については、前回の北京オリンピックでの失格から、いかにして今回のオリンピックまで気持ちをつないできたのか、次のような記事で紹介しています。

> 2022 年北京五輪。１番手を任された高梨は、１回目を飛んだ直後にスーツの規定違反で失格となった。記録は取り消し。日本のメダルは絶望的となり、泣き崩れた。（中略）
> どう責任を取ればいいのか――。引退が頭をよぎる。「沙羅ちゃんのジャンプで元気がもらえる」折れてしまいそうな心を、ファンのそんな声がつないでくれた。
> （高梨）「昔は結果がうれしくて飛んでいた。でも今は応援してくれる人にどれだけ喜んでもらえるかにフォーカスしている。」

極限の緊張感の中で、安定したジャンプを２本そろえるのは至難の業です。本番が近づき、緊張感が高まる高梨選手をチームメイトが支えます。アンカーの二階堂連選手は「もう楽しみましょう」「僕がキャリーする（つなぐ）んで」と声をかけたとの事です。４年前のシーズンを大けがで棒に振った丸山希選手、４年前は代表入りを逃し悔しい思いをした二階堂選手、それぞれが支え合い、声を掛け合ってつかみ取った今回の銅メダルは、見ている私たちにも多くの感動を与えてくれました。

「感動」と言えば、２月 20 日に行われた今年の六年生を送る会も「感動」の連続でした。ダンスやメッセージ、思い出の画像などこの日に向けて準備してきたどの学年の発表も素晴らしく、最前列の６年生が本当に笑顔で見ていた姿が印象的でした。きらきら班や運動会で６年生が一生懸命に過ごしてきた時間が、「ありがとう」の気持ちになって花開いたように感じる心温まるひとときとなりました。この六送会は、６年生一人一人にとって、小学校時代の大事な宝物となってくれたことと思います。いよいよ暦（こよみ）は３月に入ります。６年生と過ごせるのも残り１カ月。心に残るような日々となるように、みんなで頑張ってまいります。